

初めての除草剤展示の思い出

戦後間もなく、通称GHQとよばれた占領軍の指示で、従来の農業技術浸透指導農場制度は廃止され、米国式の普及制度が昭和23年から発足した。香川県にも昭和23年10月に農業改良課が新設され、筆者も農業試験場から県庁に移った。翌24年夏作から普及活動方法の一環として展示圃を多く設置することになり、展示項目の一つとして、水稻用除草剤2,4-Dがとりあげられた。

普及事業というシステムには全くなじみのないこととて、Kelsey Hearne 著のCooperative Extension Workを勉強しつつ、各郡に一か所の展示農家を計画したが、実際には4戸しかできなかった。問題は失敗したときの補償のことであった。万一、失敗した時は、補償するという覚悟で出発した。今から考えると原始的やり方で、田植20～30日後に落水して後に2,4-Dを散布し、その後1日位して再入水するというやり方であった。珍しいこととて村長や組合長をはじめ関係者が見学にくるなどで、失敗したらどうしようと、普及員も農家も心配は大変であった。当時、一年生雑草の栄えていた時代のこととて、散布後は雑草の屍累々と見事な殺草状況であった。

この展示の効果は、農業に大きな衝撃を与えた。関係者の喜びと共に、将来への期待は極めて大きかった。あれから27年目の今年の夏作も、植調委託でも30薬剤の新除草剤の展示が行なわれている。当初の2,4-D展示を思いだし、感慨無量であると共に、関係者の努力に感銘するものである。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 末沢一男〕
近畿中国四国支部長

目次 (第19巻第4号)

シバムギの生態とその防除……………2

＜北海道農試 池田正昭・岡 啓＞

1. はじめに……………2
2. シバムギの生態……………2
3. シバムギの防除法……………5
4. まとめ……………6

北海道における馬鈴しょ・麦の栽培

と雑草防除……………7

＜北海道十勝農試 今 友親＞

1. はじめに……………7
2. 馬鈴しょ栽培と雑草防除……………7
3. 麦の栽培と雑草防除……………12
4. おわりに……………13

青森県におけるナガイモ栽培と雑草

防除……………14

＜青森県畑作園試 大場貞信＞

1. ナガイモ生産の概況……………14
2. ナガイモの作型と栽培法……………14
3. ナガイモの作業別労働時間と
雑草防除……………15
4. 除草剤の利用状況……………15
5. 除草剤利用上の問題点……………16
6. 除草剤利用上の今後の課題……………16

昭和59年度常緑果樹関係除草剤・生

育調節剤試験成績概要……………17

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞